



特別寄稿

「がまの油」と「せんそ」

奥井登美子

薬の宣伝の口上が独立して芸能として定着したのは「がまの油」くらいかも知れない。

漢方でがまといえは「せんそ」。これはガマの皮膚の分泌物を干し固めたもので、少し紫がかった灰色で丸いお餅のような形をしている。大変高価なもので私が国立衛生試験所で見たいものは、直径十センチの大物で、そのくらいの大きさだと何十万もするという。それもそうだろうがマの皮膚から、柳の小枝でなくても何かで刺激してでる分泌物の量はたかが知れている。分泌物だから油ではない粘液である。このわずかのものを低温でとろりとろりと煮詰め、蒸発させて餅にするのだ。気の遠くなるような根気がいる。高価なのは当然である。「せんそ」の成分はブホトキシシン、ブタホリンといった毒物で、舐めてみると、舌にかなりびりびりした刺激があるという。一度舐めてみたいものだと思っただけで、一度舐めて何千円などといわれたら困るのでまだ舐めたことはない。毒ではあるが、ごく少量だと痛みを止める効果もあるのだろう。

名君の誉れ高い徳川光圀は、一六九三年に茨城の山野に自生する民衆の手に入りやすい三九七種類の薬草の処方集を「救

民妙薬」という書名で出版している。当時のベストセラー本である。その中に、手足の痛みにはヒキガエルの皮を巻き付ける、カンの強い子にヒキガエルを黒焼きにして使う事例は載っているが、分泌物の利用は載っていない。

昔、土浦の鷹匠町の角で、ゴマ油の中にヒキガエルのカラカラに干したものをに入れて、ぐつぐつ煮て、それを「がまの油」と言って製造していた家があったという。口上に出てくる「がまの油」もこれに似たたぐいの物だったのだろう。「がまの油」は「せんそ」という高貴薬を手に入れたことのない民衆のあこがれを利用した商法だったのだと思う。

「千姫まつり」に

がま研有志が大活躍！

宇野 昭



徳川家康の孫娘、千姫の墓がある水海道市で、去る四月二十二日(日)「千姫まつり」が盛大に催された。千姫は夫と二度死別した戦国時代のヒロイン。仏教に帰依し、菩提寺とされる同市豊岡町の弘経寺では一九九七年に遺骨が発見された。まつりのメインは総勢百五十人による「千姫さま行列」。九七年に始まった「千姫コンテスト」で選ばれた歴代「千姫」をはじめ、侍女や女弓衆などに扮した女性を中心に、家康役の水海道市長ら男性も加わり、市役所を発着点に約三キロにわたって華麗なる戦国絵巻パレードを展開し

た。このまつりに協力参加した各団体等によるアトラクションがあり、我が「がま研」有志も、地元を代表する池田はま江さん、寺田留雄さん、小峰愛作さん、そして那珂町より遠路はるばる馳せ参じた清水泰清さんの五人の方々と、市内二ヶ所に分かれ「サアーサアーお立ち会い！」の呼び声も元氣良く、がまの油売り口上を実演、日頃の努力と練習の成果を見事に披露した。みなさん本当にご苦勞さまでした。

(記事の一部は、地方紙より抜粋)

一芸が仕事に生かせる

泉 修平



「がま研」設立から一年余りが経過し、会員の中で熱心な人はみるみる「がま口上」実演が上達し、目を見張るものがあります。素晴らしいことです。

私は、何年越しかの節目節目に少しずつ成長してきたように思います。何かすると必ず壁にぶち当たり、行き止まり休憩し、又始めるといふパターンでした。最初は夢中で口上を暗記したものです。次に声がかすれる途うたい込んだこと。通勤途中の車の中で大声を出すことは、快感とストレス解消になりました。小道具を一つ一つ揃えていき、その都度早く実演で使用したくなり、次の実演の機会が待ち遠しくなったこと。

私の自己満足も最近では周囲が少しずつ認めてくれるようになり、余興として始めた一芸が仕事に生かされる様になりました。

した。最近では支店、営業所から「がま口上」の余興の声がかかる様になり、三十人から百人の販売店の集まり、商品説明会での余興、ホテル宴会での余興と各地に行くようになりまし。和歌山、姫路、大阪、名古屋、七月には長崎での実演が待っており、一泊二日の「がま口上」の

のぼり旗 つくりませんか？

小道具と言えども実演に無くてはならないのぼり旗が欲しいとの声に「がま研オリジナルのぼり旗」の発注を考えております。

つきましては、購入希望の有無を同封の葉書でお知らせ下さい。

☆160cm×45cm 二色刷

☆50枚作成で、単価2,000円程度
(枚数に応じて単価が下がる)です。

め「がま研」の流れに乗って行動し、余興の達人を目指しましょう。

「ワープステーション江戸」

初口演奮戦記

清水 泰清

五月二日、連休の谷間の日ですが三月に逆戻りしたような寒い日でした。今日は私の事実上の初舞台です。昨年後半からがま口上を人前で披露するようになり、

出張は、楽しい時を過ごすに、月一回の実演が、会社勤めの現在、ペーシ的に合っている。今休憩中の方は小道具を揃えることから始

会社の慰安旅行、忘年会、同窓会等と経験を積みながら、水海道の菅原公民館での練習会で、池田先輩をはじめ小峰さん寺田さんに、いろいろ指摘してもらいました。四月十四日の総会でワープへの出演が決まり、その予行演習の意味も含め水海道「千姫まつり」に出ました。何とその日ワープに出演された原先生、宇野先生が見えており、両先生の前で演ずることとなりました。もちろん、この日も本番の真剣勝負でしたが、先生方の前の口演は緊張の連続で、今までに指摘されたことを思い出しながら懸命に演じました。宇野先生からは「平坦でメリハリがない。山場を作ることを考えて。言葉がきれいすぎる。お客に訴える物が欲しい。」等の講評をいただきました。瞬く間に日は過ぎて、今日まさに本番の日を迎えました。宇野先生と一緒に出演するので、「私が先にやるから、良く見て。今まで言ったことを併せて実行すれば大丈夫だから。この会場で一番大切な事は、テンポを速く歯切れ良く話すこと。林先生から教わった通りに、余分なアドリブは厳禁。」との助言。流石に先生の口演は、流れるように無駄がなく、手足の動きは小さくても要所に歌舞伎の所作が入っていて迫力があります。お客は息を殺して見つめています。終わると、正午の気温が十一℃という寒さの中で、汗をかいておられました。

さあ、その一時間後、私の出番です。少し気温は上がりましたがまだ寒い中、三十人位の人の輪が出来ました。先生に紹介していただき始めました。今、よでに注意されたことが一度に思い山、あれもこれもと頭をよぎります。

ここで負けたらダメだと、ぐっと胸を張り右、真ん中、左と三ヶ所の人を目標に定め、語りかけるつもりで始めました。そしたら割合プレッシャーは軽くなりました。途中「がまの油の効能は」の所で、先生の口演を思い出し、少しテンポを速くしてみました。

八分四十五秒の口上はすぐに終わりました。なんだか大きな仕事をしたような、自分にはその結果が分からないだけに、不安な深呼吸をしました。先生からは「途中で普通の言葉になってしまったところがあった。『山寺の鐘がゴーンゴーン』の言葉をもつと大切に。」との注意を頂きました。

ワープステーションの雰囲気は、今までの口演会場とはまるで違い、ものすごく緊張します。立ち往生しないで口上が終わりほっとしました。本番直前までご指導頂いた、宇野先生に感謝申し上げます。

私の、夢の中の一日でした。

〔予告〕

筑波山がまの油売り口上
全国大会の開催日決定

と き：9月30日(日)

と ころ：ワープステーション江戸

会員の方は大会運営に協力
をお願いします。

がま口上との出会い

張替 博男

あれは忘れもしない平成八年十二月十日の事でありませぬ。突然、衝撃が頭にガンとはしりました。すると、右手右足が少し重く感じてきたのです。そうこいうするうちに、五・六時間が過ぎたと思ひます。今度は電話に出ることが出来なかつたのです。これは大変と思ひ、店を閉じて家路につきました。何か起きたと思つた妻は私に「どうしたの？」と尋ねました。「少しおかしいんだ。」と答へると、「病院にいこうか？」と言ひました。病院と言つても今まで丈夫でしたので、とつきに病院が浮かばなかつたのです。そうだ！昔、胃で罹つた木根淵病院に行こうと思ひ、行つたところ、若い先生が問診してくださり、平成九年一月二日が当番になつてゐるから、その日来てくださいとのこと。二日に病院に行き、脳梗塞との診断でした。年寄りが罹る病氣と

認識しておりましたので、まだ四十一歳なのにシヨックでした。脳の事なので、大きな病院に代わり、平成九年五月に脳の手術を行いました。三時間くらいの手術でした。退院してから、猿島中の野球部の総会があり「会長挨拶してください。」と言われ、席を立てて挨拶しようとしたら、言葉が出てこなくて、再びシヨックでした。それから新聞を見ていたらがまの口上の事が載つていたので、早速申し込み、現在に至つてゐる訳です。もしよろしければ、口上練習の場として『つくばね会』を発足致しましたので、ご入会をお待ちしております。

顧問 林 正一
会長 原 政男
世話人 張替 博男
池田 はま江
練習場 大生郷菅原公民館
宇野 昭

『口上教室』のお知らせ

下記の日程で口上の学習会をおこなひます。もう少し学びたい方や、知り合ひで始めたいと言ひ方をお誘ひいたひで、どうぞご参加下さい。

7月14日、28日
8月11日、25日
9月 8日

場所：小町の館
時間：10時～12時

勘定方よりお願い

会費の納入はお済みですか？

本年は、がま口上全国大会の開催も決まつており、会費無くなり、大会運営や発送事務は困難な状況です。お忘れの方は、下記に込み下さい。

(郵便局)
記号10690
番号38833081
名義

筑波山がまの油売り口上研究会
会長 林 正一
振込額 1,000円

がまの油売り口上研究会



筑波山がまの油売り口上研究会

全国大会参加賞及びスタッフ用に準備中の帽子の図案 (デザイン：宇野 昭 氏)

編集後記

毎日うつつとうしい日が続きます。今回第三号を發行するにあたりましては、会員の皆様より多数のご投稿を頂きまして誠にありがとうございます。紙上をもちまして、心から感謝の意を表します。

さて、次号は平成十四年二月下旬發行予定ですので、ご多用中誠に恐れ入りますが、来年一月末頃までにご投稿たまわりますようお願い申し上げます。なお、「がま研かわら版」の文芸コーナー(俳句・短歌・川柳)にもふるってご投稿下さるよう併せてお願いいたします。天候不順の折、ご自愛のほど願ひ上げます。

編集 子

第1回筑波山がまの油売り口上全国大会募集要項

- 期 日 平成13年9月30日(日)
午前9時集合・午前10時開始
- 場 所 ワープステーション江戸
茨城県筑波郡伊奈町大字南太田1176番地
TEL 0297-47-6000 / FAX 0297-57-1241
- 主 催 筑波山がまの油売り口上研究会
- 後 援 ワープステーション江戸
- 募集人員 先着20名
- 賞 大賞1名・準大賞2名・特別賞3名
(出場者全員に、参加賞あり)
- 参加料 3,000円(ワープステーション江戸の入園料・駐車料含む)
※参加料は、当日受付で支払
※付添いの方は、入園料割引の特典あり
- 問い合わせ 第1回筑波山がまの油売り口上全国大会事務局
申込先 〒300-1173土浦市荒川沖495-3 宇野 昭方
TEL 0298-42-2585
- 申込〆切 9月10日までに、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を
明記の上事務局までお送り下さい。

7/15 10時にて申込